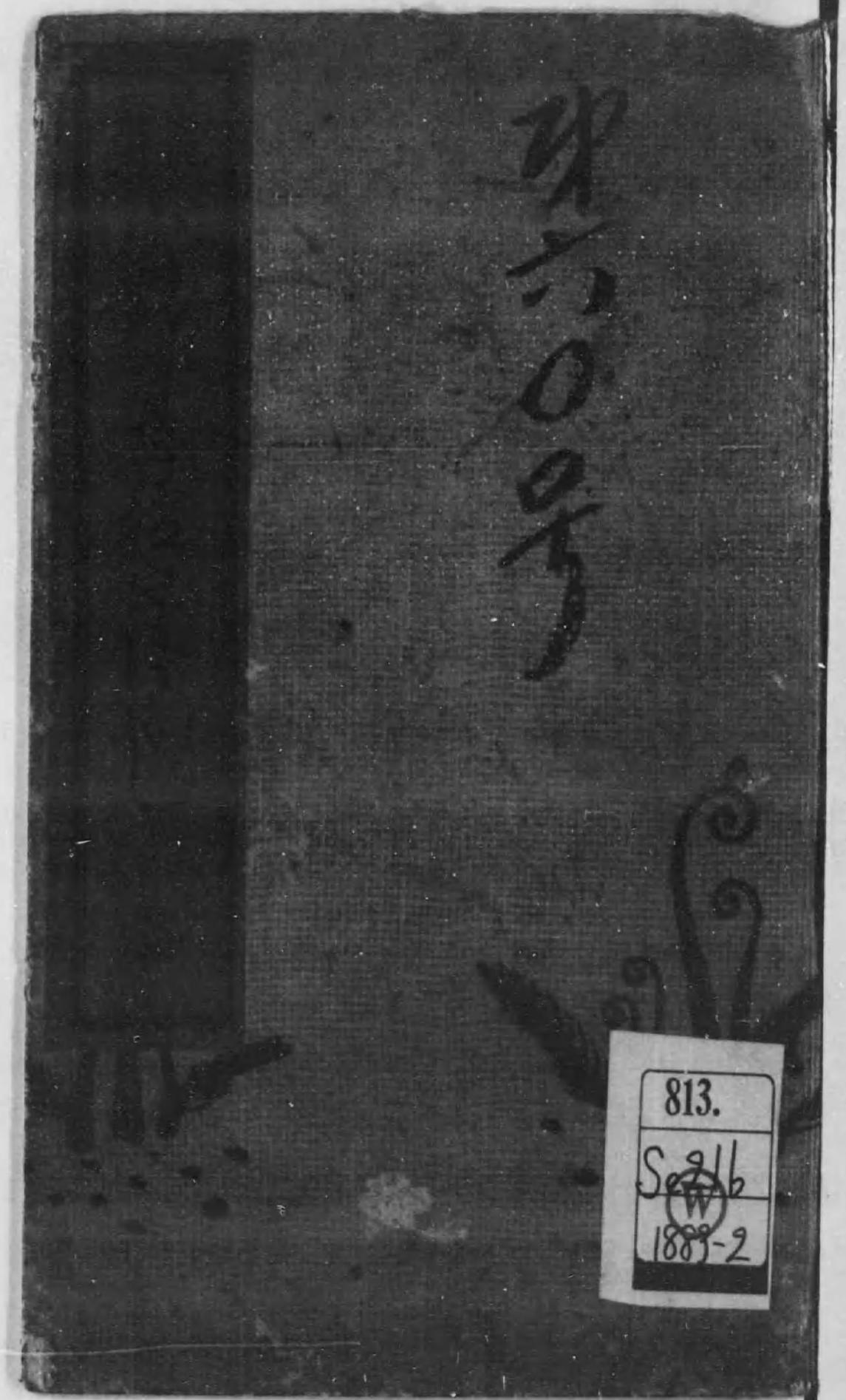


205038-000-1

813-Se216 (1883-2)

盧字尽

式亭 三馬/著

M16

EDV-0030

第六号

書紀
神代
小野蕙谷字ばくし
全

813.
Se21b
1883-2

813
Se216
1883-2

国立国
297.2
図書

336617

皆化節用 儒者の胆つぶし

總目

一客人乃官跡乃祭乃圖
一もの算用早割乃法
一銀つゝひ早割
一額くんぢんの書法
一繪馬并に聯乃見立
一諸家紋帳
一世渡ぶ法乃事
一通神の縁起并家の行列
一利勘乃妻
一けん多くの乃割
一亀紙經冊扇諸名
一年中に通用文章
一篆書似さ字尽
一物差さゝ方并道具物品
一小野蕙の小信并圖
一新製いろは文字
一五性名頭字尽
一妻去うかゝひ
一人相小うぢみ并圖倫
一諸流小うゝひ
一色角迷ふいろはの來由
一篇冠搆字尽
一異新并名つゝし
一すの筋早見
一面部圖并住解
○かまど河大概
○五性名判尽
○頭書用緑
○五性名判
○難字つゝし
○流行ことゞり河
○平生よう心河
○疱疹圖倫
○人相圖倫
○旅の面圖
○月乃異名

大尾

○客人宮後祭禮之圖

○通神之縁起幷祭礼乃次第

客人之通神と通ふ神とは、神名揖灯五町分の間、玉章射めの上、[illegible]あり。真実右地はもうしひ[illegible]して五隆三段上ゆ[illegible]を後生ごんとおぼしんもを[illegible]さ且あり。彼日乃[illegible]正月もおりのひ[illegible]なれ山と[illegible]更ふお神裏[illegible]信仰のぶ[illegible]せんふい附の神[illegible]と。[illegible]其一[illegible]ある[illegible]五十[illegible]の初[illegible]

[illegible]乃次第ハまづ初ゆ十五前廿八日乃お神酒と[illegible]二月十二日廿九日の夕方[illegible]又あくる日別当わさ[illegible]精進日と志[illegible]奥島祭食ひ[illegible]と[illegible]神おふひ[illegible]儒人の動実[illegible]どと掛[illegible]ひとと[illegible]ぶ[illegible]の[illegible]神[illegible]の[illegible]ハ[illegible]男[illegible]虚[illegible]女[illegible]の[illegible]火[illegible]人[illegible]

○山鉾行烈の次弟

口鉾　べらくとちゃらくらけさ〳〵ちう　ちくのまさ二すぢとんぺかま　人ハ世ワがかくとつのてまくさくて

あいくら鉾　ロがくふあ〜ぶ。ひよふ　ぶくへまらくらわかさかめて

逆幸　此日よざきの松ぶりの人ハ六日のゆふき八日のよんぶく昨。十日の暮から〳〵う。其前のるが逆ふおうゆゑ。逆幸しふ

太鼓持　わざくちのかぞくつゞくうけ　たらくく国会ゟまで去まさ　客のうへ紀と出しかくれの記　文ゐてうつらへならくて〳〵

格引ニ人　つさ出されるかやうつき　旦那ニ本がや〳〵る

新作一ト目から和歌作やうべらくて見せる　太臣の中でもお人目ハおまく　ちうさ喜人

「これがめくのあのけらくる〳〵う」

あふみぐく。あうふうろうくめうさ。ああのよぶ延で杖と笑てみつるりのあの人がどうちやんそう　とふう出と精実のひざまを従舎されども。そうまとをかゞろうお浅中へ。即[illegible]も妬。めうどのうりくとのらぶちき[illegible]。かうし出と半方もめうろ[illegible]恥さらけし。人の異見が薬ふもうさ。蕃やらいの人異む。ぐらと平で[illegible]くとおうさ[illegible]。がうく万度その消ハ艶つく風車しおう。我れをホットうさ[illegible]つきご二文賣　業礼ふ造作ちあろの附まっ[illegible]他人のさふ　いくうる。[illegible]へ。[illegible]喉ふ身舞[illegible]　ちゃくをお当竪く猿田[illegible]一ぞんれ　うらうくい[illegible]大[illegible]ちがわくんでぞん　とされでひんさをま。大つゞこの着ひろちん

有難山　ありがたやかんがへのさおべゆみべどきうう　待はよかるかたあがしまぎさ　「[illegible]まうの絵前中の町ぶ[illegible]待

待兼山　ふとんの上ふいろどるいの根付で。やくくぎれ。[illegible]晴るとくとも最。「ふハざくう[illegible]への待

蒲鉾　まざうで[illegible]今せの鰤の意。ひぞうしの上へ[illegible]　ぞう〳〵。[illegible]さのこと　さ　[illegible]の脇お[illegible]口ふ[illegible]

似た山　くろちりくび[illegible]ち仕立え[illegible]の　けしきさうるおぞうてちゃかさひわを　ぞえらんおやまる菊晴。おされ入れ町

狂言山　わぶてい上間大[illegible]達。うまふでく　くらうえびいし。兄付[illegible]ぞうらて　さらうの太米とまおりぞうかろ　あくし。ぶ[illegible]　きのふ世[illegible]て　「狂言の[illegible]助まかして耶ヘ入れ町

○[illegible]まぞでうう[illegible]この[illegible]ののふ　兄へ[illegible]のまつりく[illegible]まま　の[illegible]お江戸の花ぞ[illegible]

てよしつく。ひらくんされつくと耳が済ぬる。鉄金がまきおろし。身体が披てもとくをまとぞお嘉ハ異ふくと[illegible]の太鼓　扇で。わつぞきうれハ家内も[illegible]のおひ　びろふ肉[illegible]もちれら〳〵んとあらでんてを　第も[illegible]ひ出るく。男獅女獅乃夫婦あ　そひ。よらひふいゞし合をくと。男獅ハ[illegible]尾　と見く[illegible]そのあかりく[illegible]。女獅ちあんぞ　[illegible]と。[illegible]五月で角がいう。[illegible]し[illegible]　乃声よりや[illegible]あれバ[illegible]の[illegible]　をまず[illegible]の手本でとゆゞし万[illegible]詩乃　あてのましくせんさく。是より[illegible]くらで。　[illegible]くふ[illegible]細乃毒がくるひく。西貫のかく　ふ笠鉾をさし。[illegible]まらる世間向。め[illegible]て　ちゃく[illegible]花の紙衣一枚。[illegible]振てふう

○月に村雲のくし一本 まづ客の[illegible]

●げいしや二て[illegible]大ぜい

「附たり」○[illegible]富士山大まんど編せる紙子 [illegible]衣裳

○物まへの[illegible]の急の[illegible]

○[illegible]くし一本「[illegible]」[illegible]大ぜい

○鰹節のくし百ヶ一本「[illegible]」[illegible]

○病(や)ま重(め)のくし[illegible]一本「[illegible]」[illegible]

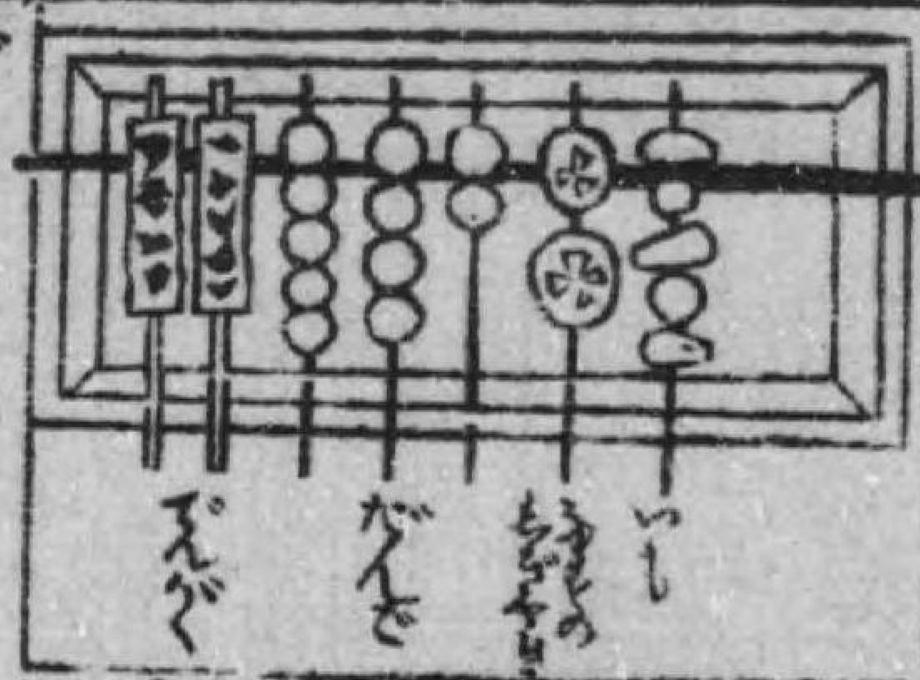
○[illegible]のくし一本[illegible]

其外の番組ハ[illegible]略之

[illegible]奴[illegible]ハイホウ[illegible]

[illegible]紙子の[illegible]

[illegible]



勘算用早割乃法

▲一[illegible]五引	▲四[illegible]八[illegible]	▲三[illegible]八九	▲団子が五[illegible]	▲三五[illegible]

[illegible]

利勘乃支

十二文[illegible]で[illegible]

[illegible]

[illegible]借金[illegible]

[illegible]利[illegible]文

おしまいひとさんまがぶつぶつとうたうくらいあるいがいぶつぶつあり
ひくふしられわけた
けんにてぐこにぼ五ぶい
七八九十とけんぼうう
法同
二てうぐこの一組ひとそう
五所ふこうりてこ法のこうたの
くもの
さらこもち二一頃作でもやれぼい
ちやぼそちんがちんぼ。こ一さこせん
の本とひく。一二がこのぐりぼいてこい
ひいてくあんたでどう
華蓋ぐらうのくるる立後同ちる
二人の割合ごうと金武四疋の
いてどおくこ五丁貝ひりハテ二
所貝おゆだんーーちまちこ会
とちくどまちぐくちぐ割る

ざれこざさん

いれまさんのやーしこらいとざれまさん
とうハおまこくちやうんでわそうこうう
のくんざやーといふこやり見ようぶいく

ざれこざさんまづちーわふおくくでうちうぞれ
くくちのあ面でおむしてべくこうのそさらいし横豆でのひ
サりくめんぼーーーーーまんぼ切ぐぐうまーぞぐくく
もりもぐざませくおやあくれませあるのくくふ
ありまとふくくーやいくぬとのでざるやくくとふ
ぐやもあ汁ふ呑くくしし何年何年何年何会のひやく動
定ぐうくくく

○看版額乃文字書法

○紙短冊扇徳利

五十分　婦人社夜毎ホカラヨ花出ス山
善義　ソソモフテヒヤクヒウケ

右ハ門ヨリ出ル時ハ
ソノ

白山之雷乃
峯流　鳥影
藤仁　也長
住流　烏比
天

表

裏

開犬の糞所小便無用

乳母
女中御奉公人口入所
きまりや

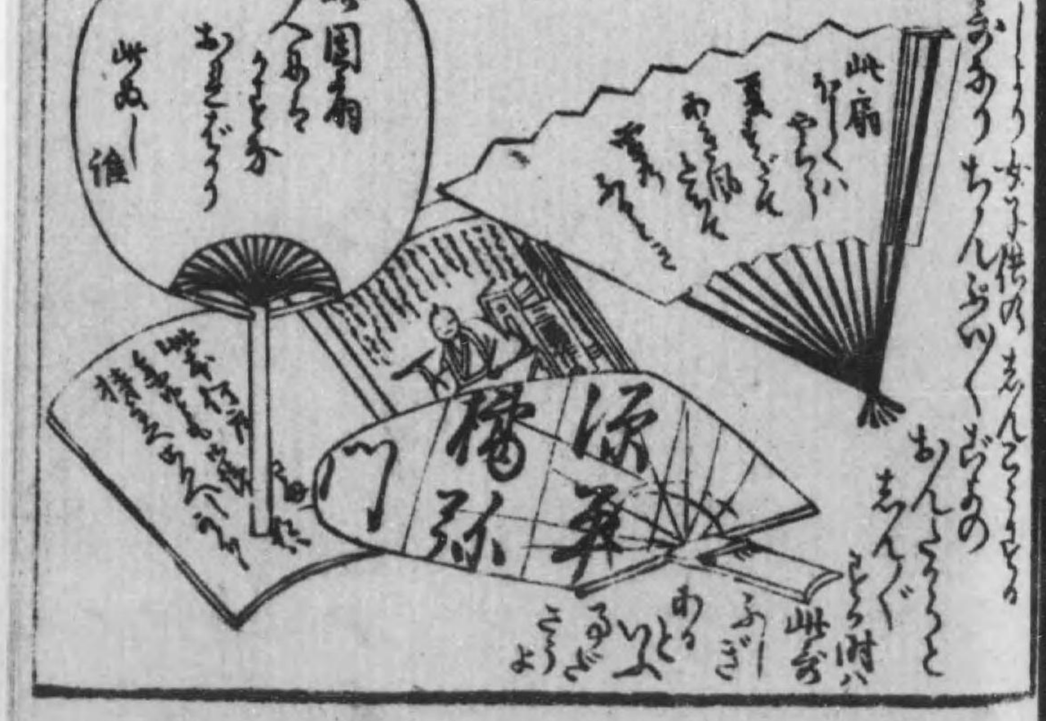
○こゝもまた所是同

吉野丸
ちらさ
ふ宿

吉野丸
川一九ハ
○やぶそ
よけの札

鈎手清治宿

蒲野文左衛門宿



○繪馬并に縣の見立

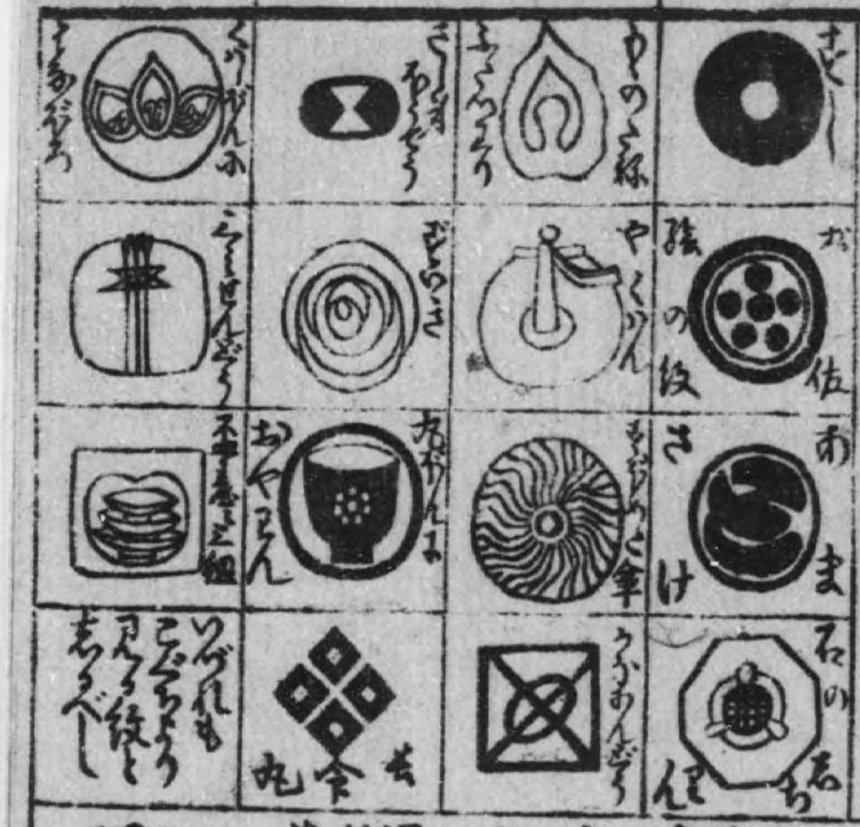
火用心

ろど四時限

○年中通用文章

寿始之吉兆駒拝之義と見て之
祝ゝやかい別ち種若に出来載ゝ
家内に繁昌。祝儀中に月義と知て
諸く用出義に納いれ之者の一ツ玉
乗年切ゝて五枚和ゝ文元結水門五筋
当年中に宝福之大小一枚義と
名札へがしいれ永細工と出ものとげ落
ら遊いかゝ〳〵扇箱。幸信と鯛如

紋ぢくし



繪ゝる紙付中に新田結の矢し如
扇ゝ形ゝ糸二本へ五割製出
之コレハ出早ゝし永井あい次北条
か七種義義に来ゝ玄之出紙ゝ者付
之よふ用の宝私一枚出義中へ
之隙近ゝ名札紙今進流之い。鰯
昆布ゝ儀稜杉沢永川之時い磐
出乃島之水波生まゝ
ゝゝんゝゝん〳〵頻首

三河屋
利義

若松万載門
その他の文章一覧之

大篆小篆似字盡

西 酉の字
五 五の字
四 四の字
六 六の字
巳 巳の字
上 上の字
毛 毛の字
累 累の字
呂 呂の字
呂 呂の字
丙 丙の字
皇 皇の字
月 月の字
朋 朋の字
羊 羊の字
全 全の字
高 高の字
用 用の字
山 山の字
角 角の字
大 大の字
貝 貝の字
弘 弘の字
目 目の字
丈 丈の字
言 言の字
山 山の字
貝 貝の字
火 火の字
玉 玉の字
翁 翁の字
化 化の字
豆 豆の字
悪 悪の字
白 白の字
命 命の字
命 命の字
孟 孟の字
且 且の字
正 正の字
況 況の字

無禮不躰方

將棋指方並詰物

盜賊九の將棋面がよいといふ九面くもいふ未詳

王 向かうとぶつきぶつきへくまで月うくいやものかくひいらもし

女房 あるじおもくひとく女下男とくつくべーわまるふ

番頭 内証まのう酒やて大なる後あるじのまるあるとといまわ

金 銀

下女 女房の約乃さーまるもくぐひらくくくべしあひるの乃ふくくく

文字ハ陰陽ハ生じて万象となるなり同月風の意移るなり小野篁秋字尽ハ偽作なるべしと競向を面白き事なり

却て童蒙に教ふる小毒ハ多し今者を誣字尽ハかんどんふりかりれ文字と稱められバ毒ゆえ毒ゆるなるべし笑ふ和げ嬢いぢり猫ゆえ薬が頭ハ解きさるべ高きゆるゆるまるる唯子ハ出ずるなるべ

出でと食洗ひ笑ふ三百換ゆえ巣とゆえあぶのうゆえ孫ゆえ

旅ゆる而已

小野篁ゆ虚八百余代

惟く天皇乃御字

小野侯成ゆる程ハ

篁ハ似く

慧とりふ文字

解乃中ゆる名ハ

人ゆるしゆ武付牛林の

ゆふ一人の童子ゆえ

元ゆる者ゆ号ひの不

屁ハ放ゆ言ひ

ゆれバ屁ゆ

抱ゆ呼ゆ言ゆ

家ゆ言ひ元来

中ゆる屁ハ放ゆ

弥治郎ゆ言ゆ

虚字尽ゆ

ゆれゆて彼ゆ言ゆ

ゆゆ弥治ゆ

で屁ハ撒ゆ

後ゆ

朝ゆて小野篁ゆ

此虚字尽ハ偽作ゆ

小野篁、或時芝居
ゆしてく遊び居らるゝ
おゝ乃大臣おのの
ゝんぞく柱拾王
陳ゝも乗ゝも各天狗
倩の一度ゆて子の字
ハゝ紙ゝく星紙
遠く使ゝ者ゝて
紙ゝゝゝゝゝれば
篁ゝゝゝゝゝゝゝ
乃ゝ注ゝゝゝゝゝゝ

○子子子子子ゝ潮来紙雛を調ゆて
子子ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ナント名ゝゝゝゝゝゝ

兎角遂ゝゝゝ・いろは乃来由

野ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

いろは新字

四十七字とやりくのてぐちちりつるとさ。隠香山は
あさよめまもくだるーねも。君まんーくと掛ふも家もまーとぬぐまい

諸方無性　いろとさけにわ。みなまよひやす。
亀酒皆迷安

身性滅法　ちりぬるぐゝゆめ。かねのほしきは。
散動夢金欲

註曰　ちやうゝ孔子よりもちろ
ぬるの精まくゝ雨も八まくゝどの
とおうとしでんちもいろゝ
さるゆハンレこゝ迷ゆと

惣慳別不粋　たれもふにるゞ。つらゐ。
誰充滿辛氣

註曰　亀と欲といろの
あるものゝいろうちゞゝハ家
くゝもおのれがゝゞもちゝ
ゝくゝ身ゆるとゝとゆめのゆ
あるものゞゝ世のゆゝこゝゝとゝ
いゆゞちゝるゆいものゞちやちゝ
あゞゝいゝゝゝるゆいゝゝゆゝ
どゝゞゞん金ゝゝわゝゝゞゞゝい
ゝ身ゝゝゆゝゞゞくゝゆゝゝ
ゆゝゝゝゝゝゞて金ゞゝゝ
ゝゝゞゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

不食貪樂　れてへぬをあるてせむ。
寂滅敢而爲

かまど洞大概

天　ハくんじゝく
地　ハちゞゞゝ
南天ハあゝゝん
古人ハ唐橋
亀ハたまゝゝ
お粥ハべゝ
ハらんゞゞ
そゝ物ハゝゝゝゝ
冊子ハさんゞゞ
参差人ハおゝゝゝじん

徳字曲

戯作者　式亭三馬戯著
門人　樂亭馬笑校

春　袁　秋　冬　暮
錆　鏽　鏡　鏡　鏡

[illegible]

鈩 金の死らんそん通ハ生ときく失ひとときゑ番ハおやちよ

鉯 金ゲ子と貴ぐふ金のふ金ゲよくぐる貸ハおかづう

鉄 金み借るがぢぐう返あんま借金よるぶ祝ぢやう

鍇 父郎の金とのぐとゑ道ハとうゑ弟いとけう一家かーぐる

返 祝ぢやう

貸釜 貸ハおかづう

釜 貸ハおかづう

鍇 弟ハ せぢ糸

鍇 ひとゑくハ ちーや

鍇 酸石ハ ぎちゑく

鍇 而ハ ちゑく

鍇 ぐんぐくハ ぢんぐんぐんぐんぐんハ

鍇 伝ぐ寧ハ ぐーくんぐんハ

鍇 伝ぐハ ゑく ちゑく

鍇 苦ゑ穀ハ せぐーくー

鍇 ゆんぐんハ ゆんぐん

鍇 却と強ハ ぐーくーら

鍇 恩業ハ ちゑん

鍇 傷太ハ ちゑんゑ

鍇 ゆーせんと冠ゆーふぐつけのぐせ酒ぐのぐゆ萬ぐかんぐう

酒 のぐゆく

罵 うんぐう

遠 走るのふゆーくー走遠くゆく無生ーくゑびぐゑゑくぐの

遠 ぐーくゑびぐゑゑ

遠 走遠くゆく無生ーくゑびぐゑゑくぐの

遠 ぐーくゑびぐゑゑ

遠 男女手紙ひと走る一人で走るけるかうまるら

遠 ぐーくゑびぐゑゑ

迎 口走るぐうゑつぐ才でぐぐるの鞠走のぐ

迎 ぐーくゑびぐゑゑ

迎 才でぐぐるの鞠走のぐ

迎 ぐーくゑびぐゑゑ

横の方ハよこずわり
ゐろりハゆるり
どうとハどうとう
目連ハおちうん
芝居ハちんどんや
茶釜ハちゃがま
猿狸ハさるのき
屁律ハろれつがまわらぬ
[illegible]ハ[illegible]
福禄寿ハわくろくじん
[illegible]ハこさんで
[illegible]ハ[illegible]

[illegible] [illegible] [illegible] [illegible]
門ニ人ハ[illegible]
頭

[illegible] [illegible] [illegible] [illegible]
大門どうんでんおんなさんそ札。女おさくみなまちぶせ
まちぶせ

[illegible] [illegible] [illegible]
大門ニのところまぐれ大門を。出ろおしろがし戻ろうハおさ
こさまぐれ　うしろがく　おさぐくり

[illegible] [illegible] [illegible] [illegible]
挑灯ニ見そて格子ハぶつけたる立見ハとけん火ハ[illegible]
ぶつつける　とけん　やら

無性印判畫

[illegible] [illegible] [illegible]
ひとひわふりんそてふられてしろとよさぶさまぞおんなねぐ

[illegible] [illegible] [illegible] [illegible]
まんがちの娘そのの子ハおや子。ニ子入よよめおちてがころうござ

[illegible] [illegible] [illegible] [illegible]
取からころでまぶハ徳。いけんハ油おこくしやぐち
うらくて　まぶ　いけん　ぐち

[illegible] [illegible] [illegible] [illegible]
早く明人がち絃でき鴉さそて惚ろがきちあそで掃くろしろの表
うねでて　さうて　ちょあ　きま

煎餅袋
賀の餅
小便無用の札
米饅頭
四目屋
姫粘
銅盞
桂糸笠
大秘上
正味五百匁
福山
睜
踵
人人
人人
人人
人人
人人

納豆
茶焼土器
油徳利
琉球芋
菓子壺
重詰
金臭鉢
切落札
三五大切
五天力
九十目が太夫格子八六十目。庁目ぐんちで三ッ目だけめの
五歩
八歩
三歩
三歩
目
林
結
鍋
焼
焼
鍋
焼

叶福助
因果車
番傘
象棋子
芝居幕
銅網の鮨
茶碗
菓子盆に煮染
硯蓋
路次口
大門口
笑摺
火縄筒
足袋看板
山城屋
碓
三年いちんぐ
石
石石石石
酉
申酉いぐんく
鍋
鶴
鶴
鶴
五
五大力いちまでぐさよいちまでぐさ
大力
富本
花
花屋の門とかもさーうと祈かーまんぜあり
門
見
返
菫
くとのさハ吾妻森ハ一里塚ぞえのさ嬉のうらまいの木
森
一里塚
嬉森
猪
猪ハぐんとくちハ鹿くちあひの木あくバ和中散あり
鹿
和中散
雁
やのぐ生えのぐ
雁
雁
麗
堺
モ舟ちくねさ木舟いろくぐあて笘舟たれぐお千代のうり
榊
榊
鮒

世の新天狗猪飛は、お洞吉そんじわ。甚だ播ぎ乗する勘合の印ふしてうすで印判する刀法印譜ふおもまる人の名乃おもまる雲か押どんバ女なりとも志るざるべりんや。古篆あんだいよの新篆ふてもふして双六壺を勇も太篆小篆大分り小分り。皆篆ぐれ印判と称るハむかし

印の祖押うしめそ銅石の印ふ祖押新せしむ。是ぞ印の祖の字とをく。是ふ祖の字と極めのちりわかり。吾朝ふて八篆字天王より始るともいひ又印形篆押うるとも其篆論判肉の付よそふ似て更ふ千ぎまげ書体刻せんと要て篆く篆刻子ハありどの作れ門ふめく。図町ふてき

三

[illegible]　さとく

あわくぢりへびとうくつふ三字とく太申とハころいふ所

太申　おうさる

[illegible]　さくらあん

和蕎肉ど、ぢくらら売あん将人と庄屋とあるがきらねけんく

[illegible]　きつねけん

[illegible]　うなぎせん

申蟹らてかうせん亀ハかうらくうで馬やの申ハでさくらく

[illegible]　かうぐう

[illegible]　ごさるう

香切　さとうめ

香切らとうめ助太刀らとところ太雄申ハお供まへさる

[illegible]　とけいざう

[illegible]　さてう

[illegible]　さうやくらさ

さうやくらさの皿あるおかう吹きの皿と付け脹ハめくんぢい

[illegible]　くわうぞ

[illegible]　めくんぢい

[illegible]　おにくらふ

一口におぐらふる鬼の留守せんたく鬼ハ外かは

[illegible]　せんたく

[illegible]　せんぶん

[illegible]　はうし

べんけいのきんさるとみらふ

[illegible]　こそのり

金時　は

[illegible]　ひよい

谷風　は

[illegible]　おうう

[illegible]　つなつ

木火土金水　きくわ

木丸らくふ山のおかみべやうぶ五水まで[illegible]

無性印判盡 尾

五性 見てくるる書判

土性火性の人は家に棲て末吉

あの木の人は家に棲て大吉

土性の人は家に棲て大吉

水性吉

木性吉

金性

火性

金性

水性よき

七性吉

駒がふしの七性吉

二八 三五 千四 四十

十二 六十 十六 八十

十五 九十 九二 四十

田 田田 田田田 田田田田

宅 宅宅 宅宅宅 宅宅宅宅

宮 宮宮 宮宮宮 宮宮宮宮

宇 宇宇 宇宇宇 宇宇宇宇

宴 宴宴 宴宴宴 宴宴宴宴

宜 宜宜 宜宜宜 宜宜宜宜

宝 宝宝 宝宝宝 宝宝宝宝

難字和解

和七　とどか
口禾と七　大和の和七夕の七

屁民
屁と對に　おく　へんけい

目目目　さけうめ
情が半分で情

龍　竜の
容が立ちがもこんな竜のつまりたんと竜の八りやくくろ

懐　こどくとを
仲裏ハ三くとを紅裏おくづくめ

鱏　やさひち
角の角ハやさうめちおさま～ね

鯏　おさま～ね

鯉　でつ～く
角宮に細工でれつく

巳　いとこち
巳ハ巳が己ハ巳とよふものハ巳己己巳せどふくるそのもの

己　おのれ

已　い

巳　み

何日目の日目　呑が酒

寸　ちよつと寸の寸
十月　宮　斎宮の宮

十六　いざよい
十六夜の十六　皆がひっくりかえる

蝿　むしで
能ぞよ虫のつく娘ハげどん油でんぶつ

蠰　げどん

蚰　でんぶつ

秀御　ひでさと
梶永　げぢつく
頼光　らいくわう

㒶馬　さんぶくくらじん
つぴくハ三人のりハくらおよ馬三疋が三馬式亭

𩣡　ちくてい

謎字尽　うそじづくし

終

編冠構字尽

並ニ繪鈔

傍ハ本字ト付ル。古文字ハ篆字ニ稟ル。本ノ文字稟ル。四庫全書大江山怪異図ハ正シ。ちゑの化地蔵出ル

○あとへん

○ひつざとへん

○つくりあし

○ぺんぺん

○ゆみへん

○ゆみへん

○こざとへん

○ぐうへん

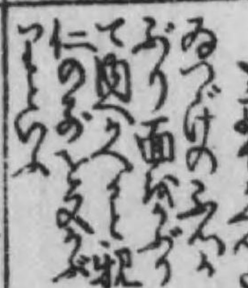
○ぐうへん

○ぐう

日 武士 晦日

大生壬 大和乃大壬生の生壬

酒造 君臣



おいんざ文字

おいんざハ牛乃字と紙ハ文字と紙と

伸く 一く 子子い 根く 狐く 若く

支きもきければ

暑き

五性

名頭字畫

木性

仁

治

杢

戸

勇

和

仏

子

木

編

君

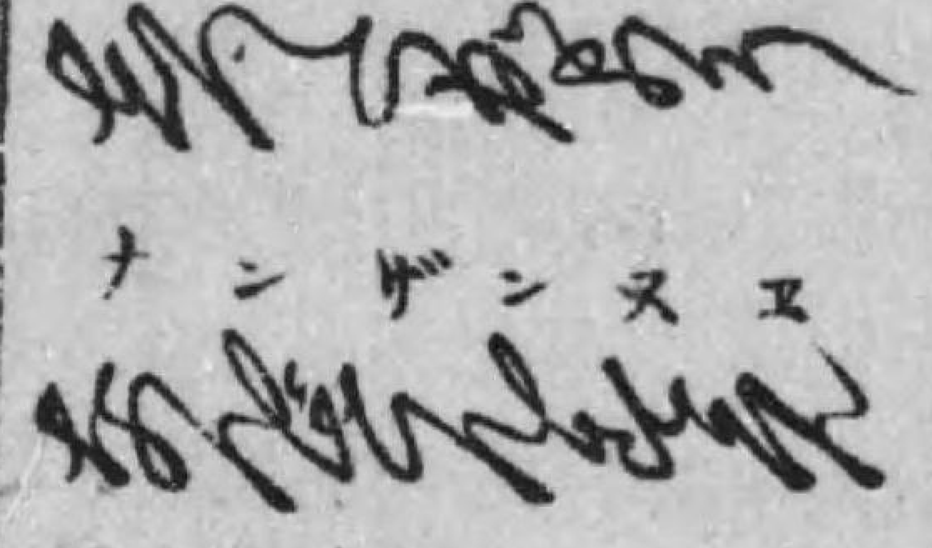
おらんだ□□なん
蒙の孫とも□□□
かんくわの字を作る
□□く格の字より
げ□ござるで中
あそこ国の村の形
ともめく出□□
あり余法の人□
つじらさし又
□無□□かの
ろんかく作り
□もらの文字
横にゆくら色□
の法にて□□一字
名をいんで□□

耳（み）	春（き）	留（る）	傳（で）
花	賀（が）	唐□合□□□□□□名□	古 論（ろん）
連	之（の）	火姓	手（で）
天（て）	小（こ）	坂（さつ）	長（ちやう）

同異□□□□の
言語頗異同□
こふ□□□□□
神□遠馬阿□
□州の□□
唖利弁須の詞
□□□□□□

シ ワ タ カ ヨ ウ

ナ ン ザ ン ヌ ヱ



陳（ちん）の	鬼（き）	能（の）	土姓
赤（あか）	江（え）	孫（や）	檀（ごん）
理（り）	弟（て）	美（み）	米（べい）
論	袁（えん）	男麻呂	種

○タイツミッタ詞

おつれもうしな　ごわんよろ
おまはんぜゝろがねらよ　オキヤクダヨ
わたやいやきれふぶの　おきやくざよ

箕	金椿	流	王
倭	金	末	敕
加	行	為	者
受	浦	親茂汝宇矢破	奈

物	丸	喜	万
而	類	我	久
茂	仰	南	和
尾	琴	自	良

何が言葉で かくれ里の 枕言葉（まくらことば）

雨がふるハ 雨がひつて
日がくれハ 日がせぶる
風がふくハ 風をまが吹る
ふげくハ まぶ見る
ゆくハ まゐる
ねるハ そうじやを
男 きんでん ○びんごう
妻 ○こまいと ○こゝろえ ○ころこざ
尻 ようさ
ぞく きんぞ

負（うど） 伍（ご） 猿（ざる）。 備（ちよ）
矢（や） 迺（の） 邑（うね） 萼（と）
都（つ） 倶（く） 時（とき） 語（い）
陳（ちん）天（てん）津（つ）。 迚（とて）茶（ちや）无（ん）
水性（えひざの）
仲（みう） 射（しや）

娘 がつそ
子供 ゑつで
下女 ゆうさ ○さふらと
かんぞう まぶのき
きつとハ きれちやく ○きんちや
客
女郎 やん
女郎買 やんぎまよ
げいしや くまや
五 うろし
芝居 きんさやり
けんぶつ さしくす
浄るり ころらこ
うらがい ころがね
様 まそらく

无（ん） 瀬（せ）。 那（な） 可（う）
社（しや） 勢（む） 世（せ）。 園（その）
名（な） 仇（く） 浪（なみ） 陀（だ）
雅（が） 深（ふか） 葉（ば） 恵（ゑ）

活

ごそ　清そう
まかい　三稀ん
吾有　げうらく
世ぼじん着　たんわ
わりさ髪　きのき
実出　みまやう
被と　見きかし
万福　むき
筆　ぐるやし
羽ある　まびむき
儀る　まる

永　祥　亭　湖

未　鶴　薫　庭

呑

陳地理地面。郭天地。貞光津傾。

名録字尽　終

稀有化京

異事冥名尽

風

物買　たなばた
よまとるゐ　まけ
くるくるゐ　まけろ
○こころとけ
ちんべい
績家　まくある
てうけ　そくうけ
君髪　アヤそろ
三味せん　つるちり
ころまち　どん
新　おのしろ
鼻　まろつざ
同　こんもり
口　ちく

七　よくおつ文のでな　七乃字の表
上江傳七

十　竪ゝくよんでも横
竪横十太

円　横く出ぬ丹の字
横江傳丹

平平平平

吉吉吉吉

一二三四五六

七九十郎

千治郎

妾書かなぞうし

ちよ	ちよ	ちよ	ちよ	ちよ	ちよ	ちよ	ちよ
こまつめう 通人のまやれうと	きんちむ 芸者のひやうしまく	ちよんちよむ 芸者のひやうしまく	おまさん 女中の名	かんてうらい たなそこのるすいつと	のつつつ 中村のつ[illegible]のくちぐせと	こんちや わぐちづら紙云	

ちよ	ちよ	ちよ	ちよ	ちよ	ちよ	ちよ	ちよ
おんこまう 男のこと	きんわう つくらいと	ぢんちやん いつもとこと かく紙	がんぼむく けあとぐらう	ふつたらふ ふらふらのどぐち	ひつまつく 天井のネ声	がんぐらん かくぐいまつよ	ゆつつ 稼ふ

ちよ	ちよ	ちよ	ちよ	ちよ	ちよ	ちよ	ちよ
ちんちむ 大笑ひ	らつらつら ふえ	ぢつたつ たらりたらり	つまつりつ りんのこと	がつまぢつ はきこんざけんと	さつ持つふ あひこうのまくせん	ちやませう けこひ板	こんちや わぐちづら紙云

おくまあさ　布一角
おと向樣の後殺ハ
おと紅葉新の
御こ味線

○いろをんの　うきもの
「いろのやうの佛書
○まちう稚心の
「五ちき縞川の
おと奪河
○ありぐ山の
かんぐ
「ぶゆやうく谷の
どちうちんび
大体世ものひきを
ぶハごといつく

さんゆやうぶゆふ　のきこ所ふこうめんやこうど
てまちわんさいさいちりめんちんこちうんハトハ　てんめんハ上之口
のとさほぐ　のくまくこまんごこ　ぎろふめん
たうへんぐく　ふようぶう　女房く
つまてふ　かくちふ
くうりん　てちゆふの類かのけひ
方さゆくわう　子假名けひ　左ゝ出と
かんびう　うんびう
つうんびう　うんひゆう
ちよべい　ちゆうひゆう
長兵衛
ちうぜゑも　ちうぐゑん
左方ゝ

手乃筋早見

●合風梶を助のくまの形で
ごぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ
二重乃中ぐ　ぐ　ぐ　ぐ

▲ぶちちうくくくの
ぐくるひ不門足ぶて
ちくのくくぶぐくくの

■コレく此絵ハ長平一軒ぐ
ちくちちちちぐ
「ヨツトまくくう大ぐ
ちくちちうう其くまハくぐ

○ひぐ　ちくひぐ
ちくくい
ちくぜ

○ぶぐ　ちくひぐ
ちくくい
ちくぜ

○ぶぐ　ちくひぐ
ちくくい
ちくぜ

○ぶ

ごういふもんどん痕紋圖說

紋一

紋四廿

紋小深

兼房散小紋。家根板剝山椒乃紋。
あり。時ハ流れ。かゝるゆゑ。小紋性といふ。
凡そ吉。此紋清るけれども。速ハ洗濯すべし。異國紋
大きゆゑ吉。俳歌乃形。明治四年洗濯すべし。

慈嫁夜發辻君之君はいとうで。ア。姉さん紙拵
さん稱ふ。十九。夜ハ出ず。昼ハ出ず。此紋と
い。晴ハ出ず。凡そ大きな吉。此紋向く見えて形ちなし。
嫉妬とゝもあれて。嫉ハ水。妬ハ火。嫉妬ハ口ひ大きな
貧永通變。青洞孔方。ア。清物びゝ。青蛙洗濯泉。
ちゝ大師。ゆゑ名間。めゝ。ゆゑ。東野洗濯通ゝ
一紋と云。一文の洗濯中の所で。南ゝ。花紋あり。一文の泉紋
清ゝで。深ゝ武まり。一紋ハ。ビて。ゆゑ。人分ハ。一紋ハ。大吉

大門紋

大門口〻〻揚屋へ。あれいさゝか。異たる野暮しい。お駒様
〻順ひさる一ト寸ゆく。茶と女郎も達役紋にしまま
ぎんバ茶小終る月と深ゝ。大紋生れば家とおのひ大
紋分ばゝ紋湯とゝ。紋ゝお駕ゝゝ右大紋の達伝大熱

於花三紋

御花ゝ文小林の朝比奈ゝゝ地ゝおわゝゝ。チト
小早ゝ乃湖音ひ是紋おゝ花三紋ゝようゝ。ちゝゝゝ
紀乃お茶湯つゝゝ。神佛ゝ信ゝゝ右。又お花
荒作松。此ゝ勝ゝ似ゝれどゝ旨女あり

御印紋

御市文わゝひハ百紋ゝ。釈ゝ。ゝかゝよゝ
人おのづゝ懐ゝう百紋生れば山御市文生
異ゝおゝひゝ勝ゝゝ。ゝ同百紋あゝく
後生安樂淨ゝゝゝ。未ゝ右光如来紋信ゝゝ

証紋

仏ゝ和尚紋証紋ゝ。金性人ゝ。ゝと物ゝ
ゝ。ゝ悪人ゝ。人ゝゝゝ。ゝゝ。ゝゝ。ゝ
わゝまゝゝ。証紋ゝのゝゝもゝく割人ゝゝ性
ゆゝんゝゝゝ。此紋生ゝ紋運ゝゝ。ゝ時ハ牛ゝゝ

天紋

天紋月ゝゆゝ時ゝ渾天仏ゝゝ花ゝ物ゝ。ゝゝハ
ゝゝゝゝ。ゝゝゝ東風ゝゝゝゝ人ゝゝゝゝゝゝゝ
春の音ゝ入て去。ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝ。ゝすゝゝゝゝゝ持ゝゝゝゝゝゝゝゝ天紋

肛紋

門田町乃髪結家ゝ偉ゝ小似ゝく名ゝゝゝゝ
奴法持ゝ此相ゝゝゝゝゝゝゝ。ゝゝゝ行れ
ゝゝゝ最ゝ紋ゝ。ゝ法大師ゝ此相ゝゝゝゝゝ
ゝゝゝ。ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ大正

學紋

学紋といふは筋あり。和学漢学。その紋乃内小流れ。武家ちんぷんかんぷんあそ出世とゝろ。わり子ゆくで。婦つくるあ所人百性せて賢人乃手で矣て亟

法紋

法紋と釈門乃使あり。俗あてこまりとぐらん禅紋と云。金ち如くくと意の如くたまり。よハわさくくと生長せ。家ハつゞ世人と排子ちと大こ長よし。地獄黒ハ行。掛取乃婦仕侵極楽如何。色ハ大亟

起請紋

起請紋たゞひ乃極小ものきといふあり。ゆえれ実宝起請紋といふ。嘘ぐ起請ハ出ちく付ち無の野ぐく鳥ハ三羽死ぬ大ちまり。大体ち反古とあり赤ゝどゝね紋あり。ゝゝや始終どゞゝ

二王紋

阿弥紋乃同の如くハ二王紋。大こあるハ山紋世ゝ。版材男あるハ門書小出世とゝ。山紋わるハ力あるて芋蛙ハ上ちみ作ちあり。本当江尾ハ白そ尾食ハ親者と言ハ一ゝく去。

定紋

定紋。三升乃紋。流ハ起一。俗人乃上ゝ。亟教具有ハ。時ハ浮も祝ハ吉相ゆく。ゆゝとゝとゝちゃ運開き代ハ栄ゝゆゝおゝゝゝゝゝゝ

註紋

注文ちゝ。お寺あり乃ゝ。ゝ亟庫小不ハ法ハ吉ゝ二形作ゝろひ。亟ゝ亟ゝ関ゆゝて番の物ぐ冷飯ハ食ハ注孩夫婦和合ちゝ吉ゝ。ゝゝめゝゝゝゝゝ亟ゝ亟ゝ注文ハ乃手揚ゝゝゝ注紋亟ゝ注紋大亟

人相小鑑

○下司のものハ屋くさくるると尾蓋あぐ〜紅門ぐ 終

福相

人公同じうして人乃面の如しかくそ。人相ハ人をみるに面をみるべし面と云ふ事ハ金が値と云ふ。金が値と云ふ時の地蔵相。時とかりて来の相あり。按ずるに女房も鬼ゆわしあり。夫ゆく相ハ

人相圖論

一、事二威二、四古五、孤六、善七、惡八、俗九、星八相。

ゆう。男女とも小此大概とゆうて志ゆくしゆ。

三、のさ、ハ四相ゆう。義理文芸ハ相ゆ。

金がある相

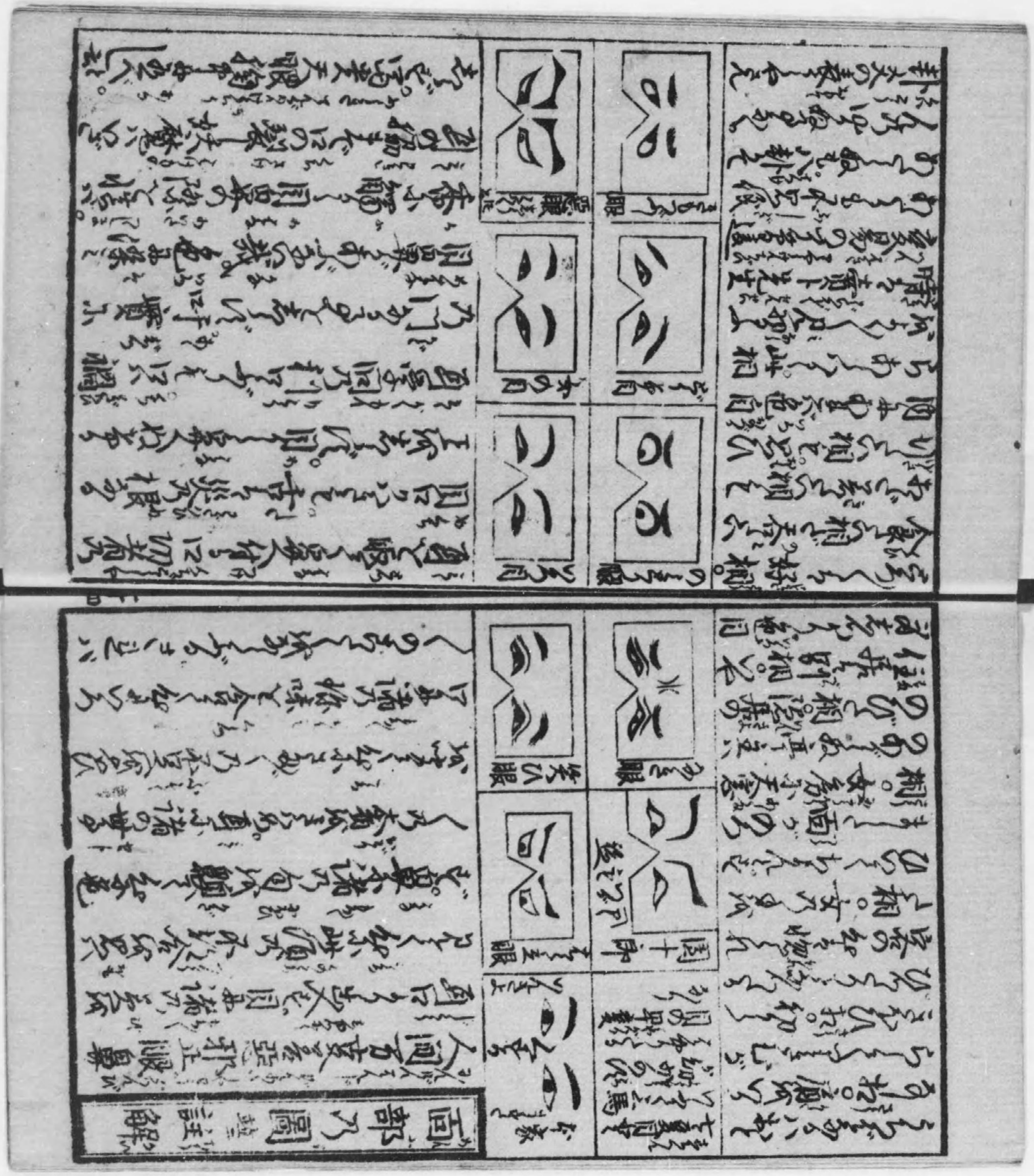
やうまー相

吝相

慢ぞう相

と世ゑ義経八相
とびくらべさらふ
出せる家又四相
と煙巻くて十二
相ゑわるくとピント
四相ぢろみくるゆ
ゆわくどや。
閻魔ゑ抹香ゑ
ありくゆくか面と
ちぶ相べ粉くく
ちるゑ後相。ふ
ふくくちるゑ姥
相。もくくちるぶ

ぢくゆ後とゑ
わ。ゆゑゑ
のどとぐびりく
ちぐひとぐ相
。もゆゆふわら
とくりく高く
ちくちゑんゲ大相
。初鰹ゑ仔鯛や
で食くく面ハどう
ク辟れ。天ゑ
うぶくくくるのゲ
虚ず相むせふ
ちやゆやちゑ
れ。もくくちそ



大師さまの御面
ちっも違はぬ
夜の淋しさ

平生よくいう言語

○かんあんたのの
せんたくで
○うとかつこぢの
○おそれいりやの
きーのぢん
○おそれ入山で
○きちーてーらいや
ひらーどえんか
○ぢーでぜーとの手物
でおきつけーく

○のーとぎのびーやん
○いくべだくーとまー
○おそろかんたん
まーこかくーだーく
○こぐのの去ぜーじ
○ちー後くの子ちた
○つれかいの舌と出
○半紙のしー大根
ちーくーの子
○去国通れバこいい
ーくーも後く
○かんでの八所ぢり
○おまえ面までらーや
九十九まで
○あやまちのぢーら
○大笑ちゃんくーわーぜ

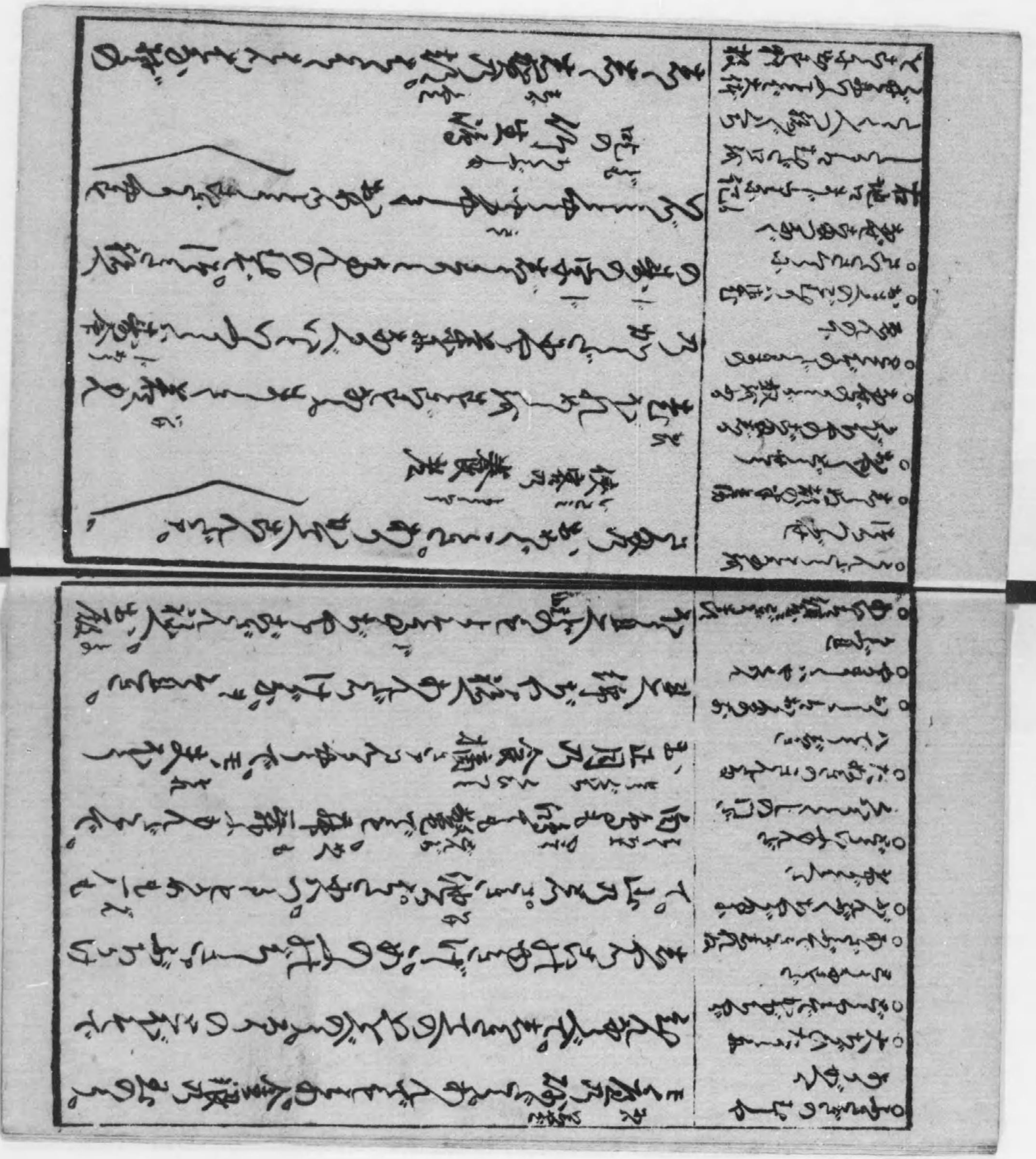
諸流小話

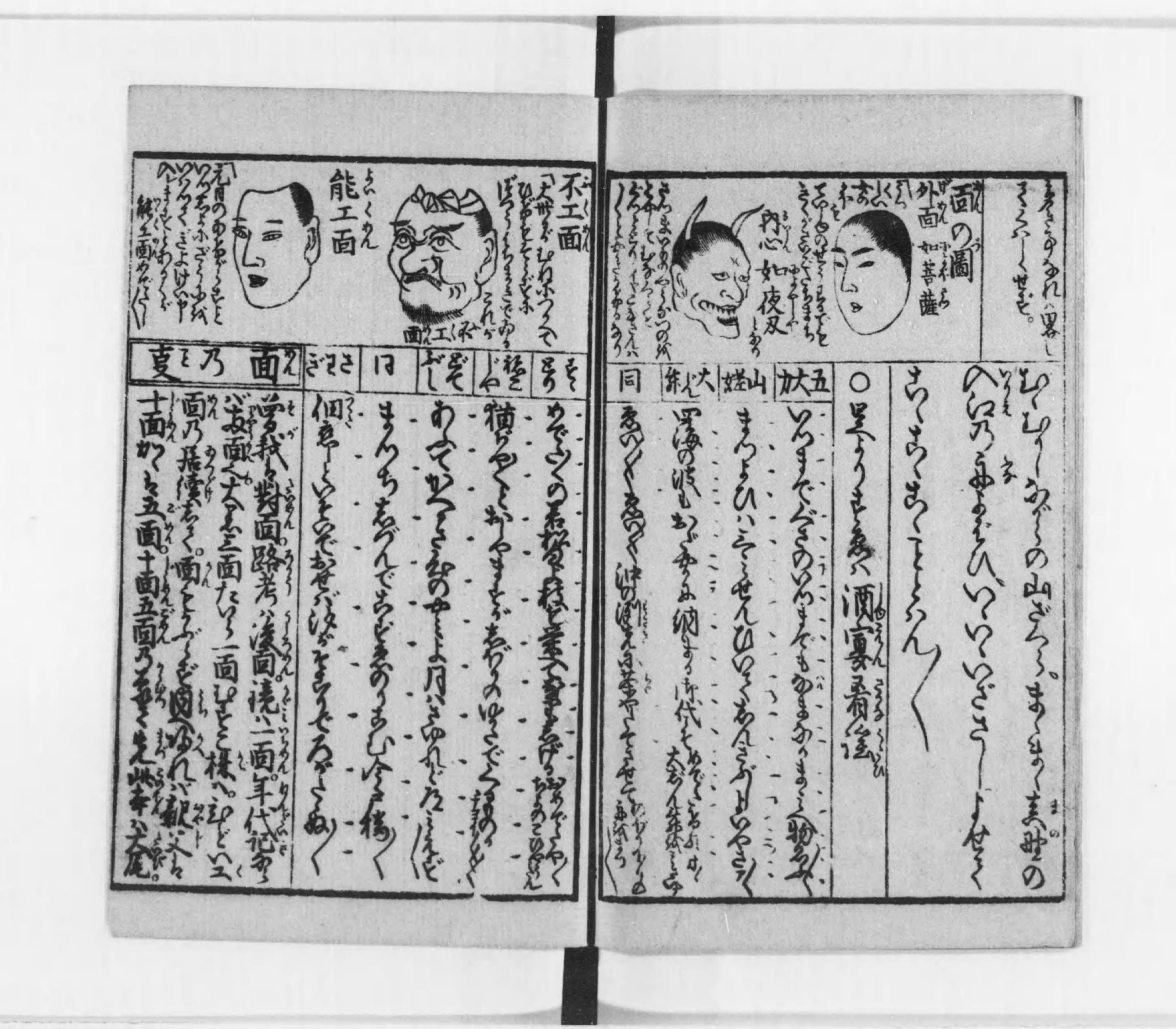
一流毎ふようくせあるゆゑ
ふみのうらかーゆくんぐし

高砂

ひろい波辺ばふくぶふとかるとさんうぶの
屋ぢこかのーさねこよおれや。ひふといいのの
松ちそやぢこうあまぢげやらぶぢてとちと
とひろくやかーくふふとある所こくゆくるきこ
乃やぐこぢとりげこれ〳〵

[モ]せまのぢの子
ぐかーんちゃる 鶴亀





面の圖

外面　如菩薩

内心　如夜叉

不工面

能工面

面乃変						
夏	ざとさ	は	ぶそし	祝とし	ちそう	
丈面かゝる五面。十面五面乃ちまく先此本は大尾。	愛我心対面。路考は浅間。境は二面。年代記の面乃振袖ちく。面ちぶ〻ど図ゆれば親父ち	個京ちいとのでおせば汝がちまりでろがちゝ	まんちちぐんでちどきのくまい今ち稽〻	わそかゝちのゆ月はちゆれでたちどゝ	猫ちゆくおやまちとぶちぐりのゆちでくちのちゝ	ゆでちくの表情と様と業でまちぶちぐちのちゝ

同	大糸	山姥	五加	同
表のいく	深海の波もまぐあるゆ紐まる代ちゆでちるよ	まんちひいちせんひいちくちんぐちよりやちく	いちまんでぐちのいんまでもかまかまく物ちく	

○星ちうまちあく酒宴看法

ちくちんくせど。

表ちちゆれは畧し

月乃異名

▲閏月　●あくがれ月
▲正月　●月宴
▲二月ハ　●初午
▲二月　●雛様
▲四月　●誕生
▲五月ハ　●幟で
▲六月　●天王
▲七月　●七夕
▲八月　●月見で
▲九月ハ　●菊見
▲十月　●夷講
▲霜月　●顔見世
▲極月　●餅搗

維時文化第三稔丙寅春王正月
明治十六年十月改題
神田末廣町
出板人　青雲堂　英屋小堀房

薄戯堂　式亭三馬著

官許

登龍丸

食物一切さし合なし　定價　二日分　金五錢　七日分　金拾七錢

此登龍丸ハ我家の秘法ふしぎ諸君の知る妻。多くせき
ものなり。高通りの妙藥なり。譬ハ十年廿年ぜんせき
もて迄ようやむねつもあり。ようて胸ぜんみ氣和も寝る
事なりでさくもかるまハ高粒おもきハ高回り數年来
難症ハ三四ヶ月用ゆ成ハ治る事ハ神妙ハ本能書ニ記す

官許

龍聖湯

婦人血の道の妙藥　定價　金四錢

此龍聖湯ハ產前產後陰ちの道ハ大妙藥にして苦ようの
血の道系數多ありといへども他ニ種類なき奇系なり
用ひて功験大なるを吉ニ奉ハ本能書ニ記す
本舗製劑所　神田末廣町　青雲堂　英屋小堀文藏製